

アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

バリューゴルフ
VALUE GOLF
www.valuegolf.co.jp

勝利の裏側

日本女子プロゴルフ協会（LPGA）の年間表彰式が昨年の12月に行われた。予想通り、渋野日向子選手（21歳）がメルセデス最優秀選手賞をはじめ、最多の4冠に輝いた。これは、2016年の賞金女王イ・ボミ選手の5冠に次ぐ、複数受賞である。42年ぶりに日本人の海外メジャー制覇を果たした1年を物語る表彰ラッシュである。全13部門で、延べ14人の選手を表彰した。表彰式の中には、ベストコメント賞のような面白いタイトルもあるが、いずれにしても東京オリンピックへの励みになる。彼女自身が飛躍した一年の自己評価を「98点」とし、自分の思っている以上の成績でまだまだ実感がないと笑って見せた。

ゴルフというスポーツは、本来、突然花を咲かせたり、芽を出したりすることの少ないスポーツである。少しずつ肉体を鍛え、微妙なスイングの調整を繰り返し、それが一時的に完成したとしても、すぐに修正を加えるといった努力の連続が必要な競技である。と、考えたときに、渋野選手の結果は、実は中高時代からの積み重ねた努力が自然に報われたものであるし、同時にこの数年の若手女子プロ選手の活躍は、いかに幼少期からゴルフ漬けの毎日を送ってきたかという表れでもある。

男子プロが、特に世界の舞台で活躍しにくいのは、どうも体の大きさだけではない気がする。世界レベルの選手たちと比べて、技術力もさることながら、特に精神力の違いが底辺にあるように思う。精神力とは、簡単に言ってしまうえば忍耐力と、集中力と向上心である。特に、アメリカでの戦いは、競争が激しいだけに、諦めずに勝利を追い求める執念のようなものが幼少の頃から身に付いていなければならぬ。

昨年、マスターズを制したタイガー・ウッズ選手は、日本で行われたZOZOチャンピオンシップで、サム・スニード選手が持つツアー歴代最多勝利記録の82勝に並んだ。これだけでも劇的なことだが、日本で行われた初めてのPGAツアーで勝利を手にし、最多勝利記録に並ぶというところに、彼のモチベーションの強さを感じずにはおれない。

東京オリンピックの試合は、間違いなく過酷なものとなる。40度近い猛暑の中で戦うか、台風に伴う強風の中で争うか、自然環境との戦いになることは言うまでもない。国旗を背負っての戦いになるだけに想像を絶する過酷なものになることは間違いない。



戸張 捷 Sho Tobari

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業（現SRIスポーツ）に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデューサー、コンサルティングなども手掛けている。